

国際センター通信(No.123)

新年の挨拶 「サステナビリティと日本の土木」

新年おめでとうございます。

就任の挨拶で申し上げた世紀的な 2 つの事態、新型コロナウイルスによるパンデミックとウクライナ問題は未だに根本的な終結の糸口が見えていない。決して晴れがましい気分新年を迎える状況ではないであろう。しかし、これまでの長い歴史を見て明らかのように、人間の叡智が何とかこれらの困難を乗り越えていくことを期待している。

土木学会会長という立場上、他の学協会の関係者と意見を交わすことが多い。国内外を問わずほとんどの学会が 21 世紀のグローバルな課題である持続可能な開発目標(SDGs)、特にカーボンニュートラル(CN)に関心を示していることが強く印象に残った。建設分野内外の識者が指摘するように、SDGs あるいは CN の達成にはインフラ施設が大きな役割を果たす。インフラ施設の構築により、貧困撲滅、教育機会の提供、ジェンダー差別の解消など多くの SDGs への貢献という正の側面と、全二酸化炭素排出量の 3 分の 1 近くが、インフラ施設の構築と維持補修という建設工事に関するものである。現時点ではあまり語られていないが、CN に必要な種々の施設(セメントや鉄鋼製造業が CN を達成するための施設、二酸化炭素貯蔵施設、再生可能エネルギー生産施設など)もインフラの大きな役割である。土木学会としてもこの点を自覚し、国内外で主体的な役割を果たしていく必要がある。

そのためには、土木学会を支える日本の土木の実力が重要な要素となる。土木学会の役割の中身・質は土木の実力次第だからである。会長プロジェクトとして、日本の土木の実力を自身で確認する作業を研究者・技術者の若手の方を中心に進行いただいている。それと呼応する形で、本誌の特集は「世界からみた日本の土木」であり、海外の外国人や日本人、海外から日本へ来た外国人の視点で、日本の土木の実力を鋭く語ってもらっている。土木の実力の指標の一つである D&I についても新たな視点が示されている。海外からの視点で見ると我々が気づかない日本の土木の強み、弱みが見えてくる。

冒頭に申し上げたウクライナ問題に対しても土木に期待されている貢献がある。破壊されたインフラの復興である。日本で培われた自然災害からの復興技術がウクライナでも役立つのは明白である。SDGs あるいは CN へ土木として貢献するためにも、日本の土木技術を世界各国で生かすこと



撮影：伊藤留美子 (写真家)

上田 多門
土木学会 第 110 代会長

が必要である。世界における日本の土木の実力を把握した上で、より多くの国内土木人材がグローバルに活躍することが期待される。

第 12 回技術者ラウンジ “DOBOKU”



国際センター・教育グループでは、若手土木技術者が海外工事に対する理解を深めるとともに、興味や魅力、あるいはやりがいを感じていただくことを目的とし、技術者ラウンジ“DOBOKU”を定期的に開催しています。今回は本年 3 月に引続き、話題提供部分にオンラインのバーチャル現場見学会を企画いたしました。対象現場は、スマトラ島北部の水力発電所工事です。酒井 貴之氏（清水建設 土木国際支店）による工事概要説明ののち、ドローンによって撮影した映像を視ながら、明かり工事は加藤 文哉氏（同）、地下工事は田中 広司氏（同）による解説を参加者のみなさんに聞いていただきました。空撮映像では、まるで自分が空から現場を見ているようでしたし、トンネルや地下発電所の空洞の中に入り込んで説明を聞いているような臨場感がありました。

時系列を追った写真を用いた説明では、未開のジャングルを切り開いて、川に仮設の橋梁を架けながら工事用道路を整備し、もの凄い物量の工事をこなしていることに圧倒されました。岩質の良いトンネル掘削ズリを砕石プラントで破碎してコンクリート用の骨材も自分たちで製造していること、毎秒 110 トンの流量があるアサハン川を一気に転流させて取水設備エリアの確保をしたこと、モスクのある宿舎やコロナ対策として隔離用の別棟を整備していること、医者や看護師まで常駐させていることなど、リモートエリアでの土木工事の大変さを感じることができました。

参加者からは、物量の多さや調達の大変さに関すること、ローカル作業員の管理に関する質問や意見が提起されました。日本人技術者の指示に対しては、その場ではきちんと従ってくれるものの、翌日にはまたもとの状態に戻ってしまうことが多いため、安全や品質に関しては、とにかく同じことを繰り返しインプットする必要があるとのことでした。また、雨季の明かり工事では、特に埋戻し土の転圧などで苦労しているという話も聞くことができました。

今回の技術者ラウンジは、土木学会講堂とオンラインとのハイブリッド形式（発表者はスマトラ島から参加）で行われ、参加者はそれぞれ 4 名、15 名でした。早くコロナ禍が終息して、以前のように対面で軽食を共にしながら歓談できる日が戻ってくることを祈念してやみません。

【記: 柳 英実 (国際センター 教育グループ)】

地球環境委員会

地球環境委員会は、1992 年に発足し 2022 年に設立 30 周年を迎えました。設立以来、地球環境問題に関する土木学会の先導役を担うとともに、様々な委員会と密接に協力しつつ、幅広い土木工学の分野を横断する研究・技術により地球環境問題の解決に貢献する施策と具体的方法を研究・評価・提言してきました。

以下に最近の活動状況として、「地球環境シンポジウム」および「設立 30 周年を迎えた地球環境委員会はこれから何をを目指すのか」と題した集中討議について紹介します。

- 「地球環境シンポジウム」

1993 年から開催してきた「地球環境シンポジウム」では、毎年多くの研究者・技術者・学生によって研究成果が発表されています。また、それらの成果は、「土木学会論文集 G (環境)」として年 1 回発刊されています。これらシンポジウムと論文集では英語による発表・投稿も受け付けております。

2020 年からのコロナ禍により、同シンポジウムもオンライン開催を余儀なくされましたが、2022 年 8 月に北海道札幌市の北海道大学工学部において 2 年ぶりに対面にて開催することができました。感染防止対策を十分に行った上で研究発表やポスター発表などを行い、さらに一般公開シ



横木 裕宗 教授
地球環境委員会 委員長
(茨城大学)

シンポジウム「世界が直面するエネルギー問題・気候変動を踏まえた我が国の取り組みと今後に向けて」も開催され、大変盛況でした。



地球環境シンポジウム

● **集中討議「設立 30 周年を迎えた地球環境委員会は今後何を目指すのか」**

設立 30 周年を迎え、委員会としてこれまで何を成し遂げ、これから何を目指すのか、よく議論しようということになりましたが、コロナ禍により委員・幹事・関係者が集まって議論する機会がなかなか取れませんでした。ようやく 2022 年の秋にパンデミックが小康状態になったので、今後の委員会の運営について幅広く意見交換するために、対面とオンラインのハイブリッドの集中討議を 2 回実施しました。第 1 回は 10 月 21 日に開かれ、幅広く意見やアイデアを出し合いました。11 月 18 日に開かれた第 2 回では、今後の委員会運営に向けて意見集約を行いました。2 回で計 12 時間の議論を行うことができ、大変有意義なものとなりました。今後意見をとりまとめて、来年度以降の活動の指針としていきたいと思えます。

【記: 地球環境委員会 委員長 横木 裕宗 (茨城大学)】

お知らせ

【今後の予定】

◆【公益信託学術交流基金助成】

土木学会会員への一般公募による国際ジョイントセミナー・国際シンポジウム等への助成

<https://committees.jsce.or.jp/iefund/node/21>

◆【募集案内公開】土木学会賞 国際貢献賞および国際活動奨励賞

https://committees.jsce.or.jp/kouken_sho/

◆ふくろう多門のビデオレター「新年のご挨拶」

https://www.youtube.com/playlist?list=PLRALmeewpTqoKp7gGhXqoh_b_pNvYO9oH

◆ふくろう多門の土木対談 公開！(fib 会長 春日昭夫氏他)

<https://youtube.com/playlist?list=PLRALmeewpTqoNTBYDzVRPRUqbBdiZq0MN>

◆令和4年度 土木学会 会長室

<https://www.jsce.or.jp/president/index.shtml>

・「多門に多聞&多問」*上田会長へのご意見、ご質問をお待ちしております。

<https://committees.jsce.or.jp/chair/node/59>

◆「海外インフラプロジェクトアーカイブス (JSCE ウェブサイト英語版)」新規プロジェクト掲載！

<http://www.jsce.or.jp/e/archive/>

・The Asahan Hydroelectric Power Generation Project

<https://www.jsce.or.jp/e/archive/project/pj15.html>

◆JSCE-ASCE Infrastructure Resilience Research Group ホームページ

<https://www.infraresil.jp/>

◆「国際センターだより」※JSCE ウェブサイト (日本語版)

http://committees.jsce.or.jp/kokusai/iac_dayori_2021

◆第187回論説(2022年12月版) オピニオン

(1) 健全な水循環・水環境に向けて

<https://note.com/jsce/n/n2a7b1997614d>

(2) 越境しあうインフラガバナンスへ向けて

<https://note.com/jsce/n/n3eea4a395b10>

◆土木学会誌 2023年1月号 ※JSCE ウェブサイト (英語版)

<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>

◆JICA グローバル・アジェンダ 開発途上国の課題に取り組む20の事業構想

https://www.jica.go.jp/TICAD/ja/overview/publications/global_agenda_20.html



- ◆【アブストラクト募集中(1月13日まで)】ASCE 2023 Conference
Infrastructure Innovation & Adaptation for a Sustainable & Resilient World
<https://www.icfm9.jp/index.html>
- ◆The 9th International Conference on Flood Management (ICFM9)
<https://www.icfm9.jp/index.html>
- ◆Call for Innovation Spotlight speakers - Breakwaters 2023
<https://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/311>
- ◆【アブストラクト募集中】The 4th International Conference on Transportation Infrastructure and Sustainable Development (TISDIC 2023)
<https://tisdic2023.dut.udn.vn/>
- ◆Integrated Flood Risk Management
Basic Concepts and the Japanese Experience
<https://www.routledge.com/Integrated-Flood-Risk-Management-Basic-Concepts-and-the-Japanese-Experience/Takeuchi/p/book/9781032230733>

配信申し込み

「国際センター通信」配信希望者 登録フォーム

- 日本語版: (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- 英語版: (<http://www.jsce-int.org/node/150>)

英語版 Facebook

直近の国際センターの活動について紹介しています。
(<https://www.facebook.com/JSCE.en>)

【ご意見・ご質問】JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp 皆様のご意見やコメントをお待ちしております。



Civil Engineering Design Prize 2022, JSCE
Kumamoto Castle Reconstruction Observation Path
Tsukagawa Yuzuru & Shun Hori, Nihon Sekkei Inc.

*Warmest Thoughts and Best Wishes for a
Wonderful Holiday and a New Year
Filled with Joy, Peace, Good Health and
Happiness.*

Tamon Ueda

UEDA Tamon
JSCE President



Japan Society of Civil Engineers
Yotsuya 1-chome, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0004 Japan
<http://www.jsce-int.org>